

# 安全報告書



2023年8月

しなの鉄道株式会社

この安全報告書は、当社における2022年度鉄道輸送の安全確保のための  
取組みや安全・安心の実態をまとめたものです。

ごあいさつ

日頃より、しなの鉄道をご利用いただき誠にありがとうございます。

また、弊社の事業運営に対しまして格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年6月12日、上田駅構内において入換車両の脱線事故を起こし、復旧作業のため3日間にわたり田中・戸倉間で運休となりました。通勤、通学のお客様や生活の足とされている多くの利用者の皆様、また学校や企業など沿線地域の皆様に大変ご迷惑をおかけしましたことに、心よりお詫び申し上げます。また、復旧作業にあたりましては、JR 東日本様や工事関係の協力会社各社並びに関係機関の皆様から多大なるご支援、ご協力を頂き、深く感謝申し上げますところであります。

今回の事故の記憶や記録、そして何よりも初めて脱線事故を経験した社員の安全に対する強い思いを血肉とし、今後の安全対策に活かしてまいり所存であります。

私たち鉄道事業を運営する者にとって最優先事項は「安全の確保」であり、そのためには「3つの柱」が必要不可欠であると考えています。一つ目は「安全を支える人づくり」です。今回の事故については、第三者機関の協力も得て検証、分析を行う中で、「木マクラギの老朽化に起因する軌間拡大」が原因であると判明しています。一方、運転士や指令は適切に行動していたこと、また保守担当の社員も法令に定められた点検を確実に進めていたことなどから、人＝ヒューマンエラーに起因するものではありません。この点については皆様にもご理解願いたいと思います。弊社ではこれまでも安全を確保する体制強化や人材育成に継続して取り組んできました。特にここ数年は各職場において中心となって安全を支える社員を核として、意識の持ち方や技術力、対応力の向上に鋭意取り組んでおります。今後も引き続き、安全を支える人づくりに力を入れてまいります。

二つ目は「計画的な修繕と設備投資」です。今回はこの点が不十分であったと言わざるを得ません。コロナ禍によって4年連続の赤字という厳しい経営状況の中でも、PCマクラギ化などの安全対策を早急に進めるとともに、将来に向けた保守費用の在り方についても県や沿線市町と議論してまいります。

三つ目は「安全最重視の経営体質」です。社内でのコミュニケーションを活性化し、適切なりスク管理の基礎となる「自ら考え、自ら行動する風土」を創り上げてまいります。

本報告書は、鉄道事業法に基づき、当社における輸送の安全確保のための取り組みを広くご理解いただくために公表しております。今回の事故の教訓を生かし、今後も社員一丸となって、お客様に安心してご利用いただけるしなの鉄道を築いてまいりますので、ご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

土 屋 智 則

## 安全報告書 目次

1. 安全に関する当社の考え方	1
2. 安全管理体制	2
(1) 安全管理体制について	2
(2) 安全確保に関する組織体制	2
(3) 安全管理の運用方法	3
3. 2022年度 基本方針に基づく取り組み	3
(1) 安全マネジメント体制の充実・強化	3
(2) 安全の重要性の理解と安全に対する感性を磨く	4
(3) 部内原因による事故・事象の撲滅と 外的要因によるリスクの低減	5
(4) 計画的な施設・設備の維持更新	8
4. 2022年度 定量的な目標の達成状況	8
(1) 目標及び結果	8
(2) 事故等の状況（参考）	8
5. 2022年度 安全計画推進のための取り組み	10
(1) 社長、管理者等の取り組み	10
(2) 全社の取り組み	10
6. 安全のための設備投資・修繕計画	11
(1) 設備投資計画及び実績	11
(2) 2022年度に実施した主な安全対策	11
(3) 修繕計画及び実績	11
7. 施設・設備等による安全対策	12
(1) 列車運行関係	12
(2) 車両関係	12
8. みなさまへのお願い	13
(1) お客さまへのお願い	13
(2) 地域のみなさまへのお願い	14
9. 安全報告書に対するご意見	15

## 1. 安全に関する当社の考え方

「安全の確保」は当社の経営の根幹であるという理念は、会社発足以来不変であり、ソフト・ハード両面から常に安全性の向上に取り組んでいます。

「安全の確保」のために、経営トップを含めたすべての社員が行動すべき事項を「安全方針」及び「安全に係る行動規範」として定めています。

また、安全確保に向けた当社の課題を洗い出し、それら問題を解決するための目標や取り組みを安全重点施策としてまとめた安全計画を定めています。

### 安全方針

1. 私たちは、安全は事業の根幹であるとの信念のもと、お客さまの安全を最優先します。
2. 私たちは、安全に関する法令及び規程を遵守し、全社員一丸となって安全の確保に取り組めます。
3. 私たちは、PDCAを確実に実施し、継続的な改善見直しを行ない、常に安全性の向上に努めます。
4. 私たちは、安全で安定した輸送を変わらぬ使命とし、お客さまに信頼され、地域に愛されるしなの鉄道を目指して挑戦します。

### 安全に係る行動規範

1. 一致協力して輸送の安全の確保に努める
2. 輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行する
3. 常に輸送の安全に関する状況を把握し、理解するよう努める
4. 職務の遂行に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取扱いを行う
5. 事故・災害等が発生した時は、人命救助を最優先に行動し、速やかに安全適切な処置をとる
6. 情報は漏れなく、迅速、正確に伝達し、透明性を確保する
7. 常に問題意識を持ち、改革に果敢に挑戦する

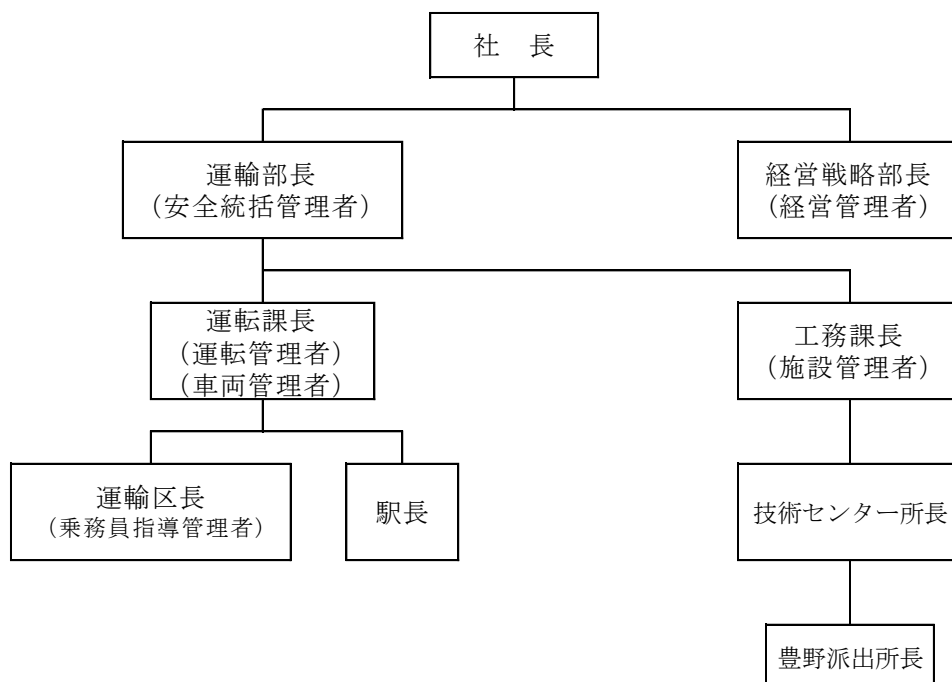
## 2. 安全管理体制

### (1) 安全管理体制について

当社では安全管理体制や方法を定めた「安全管理規程」を、鉄道事業法に基づき 2006 年 10 月に制定し、経営トップから現場社員までが一丸となった安全管理体制を構築しています。また、社長を最高責任者として、安全統括管理者である運輸部長をはじめとする各管理者の責務を明確にするとともに、社長がマネジメントレビューを主催し、安全管理体制が適切かつ有効に機能していることを評価し、必要に応じて安全管理体制の見直し改善を図っています。

管理者	責 務
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者 (運輸部長)	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者 (運転課長)	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者 (運輸区長)	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
施設管理者 (工務課長)	安全統括管理者の指揮の下、鉄道設備に関する事項を統括する。
車両管理者 (運転課長)	安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する。
経営管理者 (経営戦略部長)	輸送の安全の確保に必要な設備投資、財務及び要員に関する事項を統括する。

### (2) 安全確保に関する組織体制



### (3) 安全管理の運用方法

安全計画に基づき各機関で取り組みを実施し、その結果を安全推進委員会で検証しています。また社長を含めた管理者の内部監査を実施しています。これら情報をもとにマネジメントレビューを実施し、安全管理体制の改善を図っています。またこれらの取り組みは、PDCA サイクルの考えを取り入れて運用しています。

#### ア. 安全推進委員会

鉄道の輸送の安全を確保するための事業の計画実行管理状況の検証、事故・災害等に対する効果的な再発防止策の策定及び潜在的なリスクに対する対応策の策定等、輸送の安全水準の維持・向上を推進するため、社長を委員長、安全統括管理者を副委員長に、管理者等により構成された安全推進委員会を毎月開催しています。

#### イ. 内部監査

安全統括管理者が認めた者で、社長が指定した内部監査員が安全管理体制について適切かつ有効に運用されているかを確認し、見直しと継続的改善を行うことにより、輸送の安全性の確保と向上を図っています。

#### ウ. マネジメントレビュー

社長が、安全管理体制が適切かつ有効に機能していることを評価し、必要に応じて安全管理体制の見直しや改善を図るために実施しています。

## 3. 2022年度 基本方針に基づく取り組み

### (1) 安全マネジメント体制の充実・強化

#### ア. 2022年度 安全計画について説明会を実施

目的	全社員が安全計画の趣旨を理解し、共通認識のもとに一丸となって目標達成に向け取り組む。 【目標】「お客さま、社員、協力会社社員の死傷事故0」、「運転事故、インシデント0」
内容	①2022年4月に、管理者を対象とした安全方針及び安全計画の説明会を実施し、管理者から自職場の社員に周知徹底を図りました。 ②安全方針カードを全社員に配布し、浸透を図りました。
特記事項	各社員が自分で考えて決めた「安全への私の具体的な行動」について、1年間を通じて取り組みました。役員は、現場巡回した際などに、各社員と意見交換を行いました。

#### イ. 内部監査の実施と情報共有

内部監査実施規程に基づき、社長を含めた全管理者に対して7回実施しました。監査結果を安全推進委員会で報告し、共有を図りました。

#### ウ. マネジメントレビューによる安全管理体制の見直し改善

2023年1月に、各管理者の安全管理体制の状況と改善のための取り組み、並びに内部監査結果等を社長が評価し、2023年度の安全計画に反映させました。



## エ. 安全推進委員会の開催

実施回数	毎月1回・年11回実施 ※7月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため資料配布とした
内 容	<p>①事故の概況及び現場で検討した対策の深掘りを通じ、より効果的な事故の再発防止対策を策定しました。</p> <p>②取扱い誤りで策定した対策を、概ね6ヶ月後に振り返りを行い、有効性の確認やより効果をあげるための改善を行い、再発事故防止に努めました。</p> <p>③安全計画の基本方針に基づき各現場で立てた、傷害・運転事故防止重点実施計画の取り組み状況を報告し、情報共有を図りました。</p> <p>④各現場で発生したヒヤリ・ハット情報に加え模範となる行動の共有に努めました。</p> <p>⑤現場で実行した安全に関する取り組みを紹介し、情報共有を図りました。</p> <p>⑥運輸局から発出された保安情報を水平展開し、他山の石と捉え類似事故の防止に努めました。</p>

## オ. 運輸安全マネジメント制度の理解の促進

目 的	役員・管理者の運輸安全マネジメントに対する理解を深める。
内 容	内部監査員勉強会時で、「運輸安全マネジメント」について学習し、役員・管理者の「運輸安全マネジメント制度」に関する理解促進を図りました。

## カ. 好事例の水平展開

項 目	社員表彰の実施及び好事例の共有
内 容	<p>①通勤途上で車内秩序維持に努めた社員を表彰しました。</p> <p>②通勤途上で輸送障害遭遇時、自発的にお客さま対応を行った社員を表彰しました。</p> <p>③車両故障発生時に、迅速かつ的確な対応を行った社員を表彰しました。</p> <p>④河川洗堀を発見した社員は、すぐに水平展開を図り被害拡大を未然に防止しました。</p>

## キ. 沿線消防本部との勉強会の開催

沿線全ての消防本部が参加し、「知って、見て安全を確保する」をテーマに勉強会を行いました。



## (2) 安全の重要性の理解と安全に対する感性を磨く

### ア. 危ないと感じたら列車を止める

安全を最優先するため、繰り返し社員に教育すると共に輸送繁忙期には強化を図りました。

### イ. 「安全と安定の違い」の浸透

毎月の安全推進委員会にて事例を交えた「安全と安定の違い」を管理者が学び、各職場で安全の鍵を担う社員と連携し各社員に浸透するよう取り組みました。

### ウ. ヒヤリ・ハット情報の収集と水平展開

各現場で発生したヒヤリ・ハット情報(2022年度163件)を、安全推進委員会で共有を図りました。

エ. 自箇所へ潜む危険の洗い出しと危険の除去

通常業務で危険個所の把握及び処置することに加え、輸送繁忙期に合わせて点検を強化しました。

オ. 現地を見る、体験する、イメージして考える

冬期間は「雪の怖さを知る。雪の怖さを覚える。」ことを目的に、「雪により列車が何故動けなくなるの」等の資料を用い、「雪の怖さ」について指導をしました。また各職場の代表社員が、黒姫駅構内の分岐器除雪作業を経験したほか、北しなの線内で大雪により長時間駅間停車した場合に、お客さま救済で使用する避難所を確認しました。

カ. 安全の取り組みを更に深度化するための人材を育成する

(ア)次世代の「安全の鍵」を担う人材を育成するために各職場の管理者からなるチームをつくり1年を通じて「安全」を学び実践に結び付けました。

(イ)主な学習内容

- ① 転てつ器の除雪作業を実際に行い、除雪作業の大変さや、作業時の心理状態を体験しました。
- ② 過去の事故事例を通じて命を守るための大切さ、安全を確保するための基本について学習しました。
- ③ 安全に関する事柄や、自身が体験したヒヤリ・ハット等をテーマにグループ討議を行いました。



・黒姫駅構内除雪作業

(3) 部内原因による事故・事象の撲滅と外的要因によるリスクの低減

ア. 事故原因究明のための調査・分析法の教育

事故やヒヤリ・ハット情報を集め、事故防止のための対策の策定と実施方について、「安全の鍵」を担う社員に教育を行いました。

イ. ルールの成り立ちを学び、ルールを守る教育

安全推進委員会で他山の石等を学習し、ルール成り立ち、本質（なぜ、そうになっているのか。なぜ行うのか。）を学び、重大事故を発生させないために、各職場で「これだけは絶対にしてはいけないこと」を策定し、各職場への掲示や繁忙期の取り組み事項としました。

ウ. 運輸区事故防止委員会

乗務員（運転士・車掌）による

ヒヤリ・ハットの収集や基本力向上を図るための壁貼り新聞の作成を行いました。





エ. 訓練等を通じた安全性向上及び異常時対応力の向上

(ア) 協力会社と一体となった取り組み

項 目	実施回数	具 体 的 な 内 容
工事現場の安全パトロール	88回	工事現場に出向いて、チェック項目に基づき実施

※2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止又は規模の縮小を余儀なくされました。

(イ) 各機関の訓練及び研修等の実施

鉄道運転事故等（脱線、衝突、ヒューマンエラー等）を防止するための「運転事故防止重点実施計画」と、お客さま及び社員の事故を防止するための「傷害事故防重点実施計画」を機関毎に具体的に定め訓練を実施し、取り組みました。

区 分	開 催 回数等	具体的な活動内容	
全体	2回	・鉄道警察隊指導による列車内暴漢対応訓練 ・列車非常停止、暴漢対応、閉そく指示運転、運転士急病、時刻表誤り、停止位置不良等	
部門別	指令業務研究会（運輸指令）	11回	事例による実施基準、規程等の確認
	CTC手動扱い訓練（運輸指令）	6回	緊急時に対応するためのCTC手動扱い訓練
	各種訓練・勉強会（運輸指令）	38回	補助制御盤訓練、転てつ器鎖錠訓練、異常時シミュレーション訓練、踏切鳴動持続時横断訓練等
	各種訓練・勉強会（工務指令）	12回	異常時対応、電力関係教育、信通関係教育、10条教育、設備見学等
	駅業務訓練会（安全） 各種訓練（4管理駅）	43回	補助制御盤訓練、鎖錠訓練、不転換対応訓練、踏切支障報知装置復帰訓練、一斉停止訓練、KYT訓練、知悉度確認等
	運輸区定期訓練会 ※7月、8月、10月はコロナ蔓延防止の為、他月訓練会へ割振り	9回	運転士、車掌の全員を対象に月1回机上、現車訓練（機器の正しい取扱い方、異常時対応等）
	運輸区事故防止委員会	12回	運輸区内ヒヤリ・ハットの収集展開
	運輸区サービスアップ委員会	2回	車椅子介助訓練、AED取扱い訓練
	運輸区基本力向上プロジェクト	5回	時候に応じた壁貼り新聞の作成
	運輸区検修月例会議	12回	車両故障の参考事例の確認等
	運輸区安全衛生委員会	12回	関係個所の安全点検、時期に合わせた予防衛生等
	運輸区列車脱線復旧訓練	1回	実際に車両を脱線させての載線復旧訓練（協力会社と合同）
	技術センター安全衛生委員会	12回	他山の石の活用、傷害事故・運転事故防止重点実施計画とその実施状況の共有化
	技術センター除雪車(MCR) 脱線復旧訓練	1回	MCRを使い、脱線時の復旧方法を確認
	技術センター事故防止基準訓練	5回	異常時対応、踏切交通誘導訓練、飛来物除去訓練、災害警備、レールスター取り扱い
	技術センター各種訓練	5回	MC点検講習、脱線復旧訓練、軌陸車取扱い、ハンドロータリー取扱い、軌陸車応急復旧訓練等
	転てつ器除雪訓練	1回	本社社員、技術センター社員を対象とした転てつ器除雪訓練
その他	2回	労働安全衛生関連講習等	
その他協力会社等の研修 JRとの合同訓練	1回	JRとの合同訓練（信通）	

※2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止又は規模の縮小を余儀なくされました。

(ウ) 訓練等写真



・列車内暴漢対応訓練



・護身術訓練



・実設訓練



・技術センター事故基準訓練



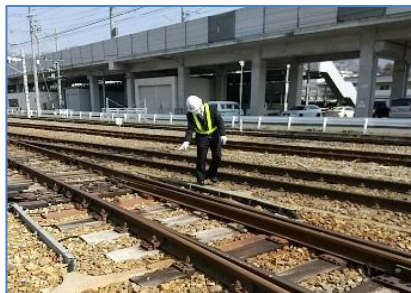
・技術センター事故基準訓練



・転てつ器除雪訓練



・補助制御盤訓練



・鎖錠訓練



・列車脱線復旧訓練

オ. 自然災害その他外的要因によるリスクの低減

(ア) 気象情報会社等からの情報や、呼び出し体制等の拡充、事前の要注意箇所点検、発生事象の対応の振り返りによりリスク低減に取り組みました。

(イ) 乗客救済時の安全確保のために、線路までの道路除雪や避難物資と避難箇所の提供等について沿線自治体と協定を締結しました。

カ. 踏切等における事故を防止

春、秋の交通安全週間に合わせて、駅構内や列車内で放送による注意喚起や、踏切支障報知装置（非常ボタン）の使用について啓発活動を行いました。

キ. お客さまへの情報提供

事故等により、運休、30分以上の遅れが見込まれる場合は、報道機関、公的機関、学校、鉄道事業者等にFAX、メール、ホームページ及びSNSで迅速な情報提供を実施しました。

・FAX送信先 102箇所 送信件数 35件

(4) 計画的な施設・設備の維持更新

長期的な視野に立った計画的な修繕や設備投資により、施設・設備等の維持、安全性の向上に努めました。

ア. 2023年3月ダイヤ改正に併せ、線路設備の延命を目的とした列車の最高運転速度の見直しを行いました。

4. 2022年度 定量的な目標の達成状況

(1) 目標及び結果

項目	目標	結果	項目	目標	結果	
お客さま、社員、協力会社社員の死亡事故	0件	0件	運転事故	列車事故（衝突・脱線等）	0件	0件
				人身障害事故	0件	0件
				踏切障害事故	0件	3件
お客さま、社員、協力会社社員の傷害事故	0件	0件	鉄道物損事故	0件	0件	
			インシデント	0件	0件	

※1 インシデント：鉄道運転事故が発生する恐れがあると認められる事象。

(2) 事故等の状況（参考）

・運輸局に報告した鉄道運転事故、インシデント、災害、輸送障害の発生件数

項目		北しなの線	しなの鉄道線	項目合計	2021年度比
鉄道運転事故		3			+3
内訳	列車事故	0	0	0	0
	踏切障害事故	1	2	3	+3
	鉄道人身障害事故	0	0	0	0
	鉄道物損事故	0	0	0	0
インシデント		0			0
		0	0	0	0
災害		18			+1
内訳	線路・送電・保安装置災害	0	1	1	+1
	災害支障	0	3	3	+1
	災害その他	8	6	14	-3
輸送障害		15			-3
内訳	車両故障	1	5	6	0
	線路・送電故障	1	0	1	0
	保安装置故障	1	0	1	+1
	ドア扱不良	0	1	1	+1
	乗務員疾病	0	0	0	-1
	部内その他	2	1	3	-3
	列車支障・鉄道外他	0	2	2	0
	死傷（自殺）	0	1	1	-1
線別合計		14	22	36	-1
全体合計		36			-1

※鉄道運転事故、インシデント、運休又は30分以上の遅延を伴う災害・輸送障害が運輸局への報告対象です。

ア. 2022 年度に発生した鉄道運転事故（踏切障害事故 3 件）

鉄道運転事故のうち、踏切障害事故が 3 件発生しましたが、幸いなことに怪我人はありませんでした。

イ. インシデントはありませんでした。

ウ. 災害に起因する輸送障害は 18 件発生しました。

災害の内訳は、落雷による保安装置災害が 1 件、動物と衝撃したものが 3 件発生しました。

災害その他の内訳は、雨に起因するものが 7 件、雪に起因するものが 4 件、霜に起因するものが 2 件、風に起因するものが 1 件発生しました。

エ. 輸送障害の内、部内原因・部外原因によるものは 15 件発生しました。

部内原因によるものは 13 件発生し、その内車両故障が 6 件、部内その他（空転）が 3 件、送電故障、保安装置故障、機器扱い誤り、車内トラブルによるものがそれぞれ 1 件発生しました。

鉄道外原因によるものは 2 件発生しました。

車両故障が原因の輸送障害の例

日時	概況	影響	原因	対策
1/7 16:27	軽井沢駅で発車しようとした列車（115 系）が起動出来ず軽井沢発小諸駅行普通列車が運休しました。	運休 1 本 遅延 3 本最大 8 分 影響人員約 30 名	逆転器テコハンドルピン破損のため。	逆転器テコハンドルピンの交換を行いました。
1/10 5:51	平原駅に到着した列車（115 系）のドアが開かず、乗務員が処置を行い開扉しました。	運休 2 本 遅延 7 本最大 42 分 影響人員約 3,000 名	速度検出出力継電器の固着のため。	速度検出出力継電器の交換を行いました。
1/25 8:21	戸倉駅に到着した列車（115 系）のブレーキ制御装置の不具合のため、運転を取り止めました。	運休 2 本 遅延 0 本 影響人員約 240 名	空気圧縮機安全弁の一時的動作不良のため。	空気圧縮機安全弁の交換を行いました。
2/21 10:45	妙高高原駅は発車した列車（115 系）の主電動機に不具合が発生したため黒姫駅で運転を取り止めました。	運休 1 本 遅延 0 本最大 36 分 影響人員 60 名	主電動機主極の絶縁抵抗値低下のため。	主電動機の交換を行いました。

送電故障が原因の輸送障害

日時	概況	影響	原因	対策
11/26 4:35	き電開始時、牟礼変電所の遠隔操作が不能となり運転を見合わせました。係員が現地へ出動し手動操作を行い復旧しました。	運休 2 本 遅延 0 本 最大 0 分 影響人員約 20 名	牟礼変電所内き電盤内 PC 不要動作のため。	偶発的な故障のため、機器更新時に信頼性の高いものを選定する。

保安装置故障が原因の輸送障害

日時	概況	影響	原因	対策
5/13 22:34	三才駅～豊野駅間の信号装置不具合のため運転を見合わせました。係員が現地へ出動し軌道回路機器の復旧作業を行いました。	運休 2 本 遅延 7 本 最大 182 分 影響人員約 80 名	信号器具箱内、運転方向リレーの整流回路部故障のため。	整流器の交換を行いました。同型の整流器を調査し異常の無い事を確認しました。



## 5. 2022年度 安全計画推進のための取り組み

### (1) 社長、管理者等の取り組み

#### ア. 社長

- (ア) 直接現場に出向き、安全管理体制に対する問題点等について意見交換を行いました。
- (イ) 1月に「2022年度マネジメントレビュー」を実施し、2023年度の安全計画に反映させました。
- (ウ) 委員長として安全推進委員会を主宰し、各管理者・現場長と安全マネジメントの実行状況や安全体制の有効性を話し合う他、事故災害等に対する効果的な再発防止策、潜在的なリスクへの対応策を作成すると共に部門を超えて共有し、輸送の安全水準の維持・向上に取り組みました。

#### イ. 安全統括管理者

現場巡回、列車添乗を実施し、常に問題点・改善事項を把握するとともに、社員の指導を行いました。

#### ウ. 運転管理者、車両管理者

随時、現場巡回等を実施し、常に問題点・改善事項を把握するとともに、社員の指導を行いました。

#### エ. 乗務員指導管理者

毎月の訓練会の他、随時、列車添乗を行って実情を把握するとともに、社員の指導を行いました。

#### オ. 施設管理者

概ね2週間に1回のペースで現場に出向き、施設の状況を把握するとともに、社員の指導を行いました。

#### カ. 経営管理者

安全総点検等で現場へ出向き、意見交換するとともに、現場の実情把握に努めました。

#### キ. 内部監査員

- (ア) 内部監査計画表に基づき、内部監査を7回実施した他、現場に出向き、意見交換するとともに、現場の課題等を把握しました。
- (イ) 内部監査体制の強化
  - ・運輸安全マネジメント研修（内部監査員コース）を2名受講しました。
  - ・内部監査員勉強会を実施しました。

### (2) 全社の取り組み

#### ア. 安全総点検 毎月1日実施（12回）

#### イ. 輸送繁忙期の点検

- (ア) ゴールデンウィークの安全・安定輸送推進期間 2022年4月25日～5月8日
- (イ) 夏期の安全輸送・サービス向上強化旬間 2022年7月22日～8月21日
- (ウ) 2022年度 年末年始の輸送等に関する安全総点検 2022年12月10日～2023年1月10日



## 6. 安全のための設備投資・修繕計画

### (1) 設備投資計画及び実績

単位：金額（百万円）

項目	総額	内訳	
		線路・電気	車両
2022年度計画	1,934	689	1,245
2022年度実績	1,786	566	1,220

### (2) 2022年度に実施した主な安全対策

- ・経年設備を計画的に交換し、安全性の向上に努めました。

#### ア. 新型車両の導入

2019年度より新型車両（SR1系）への更新を開始し、現在13編成26両となりました。今後も順次115系からSR1系へ更新を進めてまいります。

SR1系は、従来の115系に比べ、車両故障に対するリスクの低減、ホームとの段差低減、車イス対応トイレの設置等、安全性、利便性及び快適性が向上しております。



・SR1系100番台 と SR1系200番台

#### イ. 設備更新

傷んだマクラギや電化柱等の更新を計画的に進めている他新たにレール研磨装置を導入しました。



・更新したPCマクラギ



・導入した線路研磨機



・更新した電化設備

### (3) 修繕計画及び実績

単位：金額（百万円）

項目	総額	内訳	
		線路・電気	車両
2022年度計画	759	553	206
2022年度実績	716	526	190

- ・線路保存費・・・線路及び土木構造物（橋梁等）の検査修繕
- ・電路保存費・・・電力及び信号通信設備の検査修繕
- ・車両保存費・・・各種検査（全般検査、重要部検査等）修繕

## 7. 施設・設備等による安全対策

当社では、お客さま・沿線住民のみなさまの生命・財産をお守りするため、様々な安全対策設備を設置しております。

### (1) 列車運行関係

#### ア. 定常監視装置

踏切、線路、信号の異常等様々な情報を指令に集める装置です。例えば、踏切で車がとりこになった際に踏切障害物検知装置が感知した情報や、踏切支障報知装置のボタンが押された情報を指令に知らせる装置です。この情報をもとに指令員が列車の停止指示等必要な措置を講じます。



踏切障害物検知装置



踏切支障報知装置

#### イ. 防災情報システム

沿線に設置された雨量計、水位計、地震計、風速計、土砂崩壊検知装置、洗掘検知装置から収集された情報を、指令に知らせる装置です。規制値に達した際に、指令員が速度規制、運転中止等必要な措置を講じます。



雨量計



風速計

### (2) 車両関係

#### ア. EB 装置

運転士が乗務中、疾病等により運転が出来なくなった際、自動的に列車を停止させる装置です。一定時間運転操作をしない場合に、非常ブレーキが動作します。

#### イ. 非常通報装置

車内で異常が発生した場合、ボタンを押すことにより乗務員に異常を知らせる非常通報装置を各車両に設置しています。

#### ウ. ATS-SN

列車が停止信号に近づいたときに警報を発し、運転士が適切な取り扱いをしない場合に、自動的にブレーキを動作させます。また列車が停止信号を越えて進もうとした時にも自動的にブレーキを動作させる装置です。



しなの鉄道株式会社

## 8. みなさまへのお願い

### (1) お客さまへのお願い

車内放送及び当社ホームページによりお客さまに以下のお願いを致しました。


- ア. 新型コロナウイルス感染防止対策について      イ. 不審物について

**新型コロナウイルス感染防止対策について**

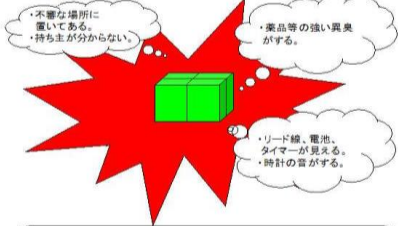
日頃よりしなの鉄道をご利用いただきましてありがとうございます。  
当社では、お客さまに安心してご利用いただけますよう次のような感染防止対策を実施しております。

1. 乗務員、駅係員のマスク着用と手洗いの励行
2. 自動券売機などお客さまの手指が触れる設備や機器の消毒
3. 駅構内トイレへの消毒液の設置
4. 改札窓口への飛沫感染防止シートの設置
5. 停車駅での全ドアの開閉や車両の通気口の開放による車内換気の徹底
6. 車両内の定期的な消毒清掃
7. 駅構内放送や車内放送での時差出勤やテレワーク等へのご協力の呼びかけ

お客さまには、「新しい生活様式」により車内では会話は控えめにさせていただくとともに咳エチケットや手洗い・うがい等の感染防止対策通勤・通学時間帯での分散乗車など引き続きご協力をお願いします。

 しなの鉄道株式会社


**不審物を見かけたら・・・**



**不審物発見時の三原則**

- ・触れない
- ・嗅がない
- ・動かさない

**係員にお知らせ下さい。**

 しなの鉄道

### ウ. 危険物について

危険物を駅構内、車内へ持ち込むことは禁止されております。

### エ. 駆け込み乗車について

駆け込み乗車は事故やケガにつながり大変危険です。余裕をもってご乗車いただきますようお願い致します。また、降りるお客さまが済んでからご乗車いただきますようお願い致します。

### オ. 線路内への落し物について

線路内へ物を落とした時は、線路内に立ち入らず駅係員にお申し出願います。

### カ. 沿線での撮影について

沿線にて写真撮影される際は、田んぼ・畑等の私有地へ立入らないようお願いいたします。

また、出されたゴミはお持ち帰りいただきますようお願いいたします。

マナーを守っていただき、心に残るお写真をお撮りください。

### キ. 乗車券は正しくお求めください


ご乗車の際は、目的地まで正しく乗車券をお買い求めください。




(2) 地域のみなさまへのお願い

ア. 踏切の通行について

**警報機が鳴っている時は、踏切内に入らないで下さい。**



**踏切内で異常を認めたら、直ちに非常ボタンを押して下さい。でも列車はすぐに止まれません。踏切内に入らないでください。**




踏切のこのボタンを押す

※一部に、非常ボタンが設置されていない踏切があります。その場合は列車に向かって手を大きく振るなどして、異常を知らせて下さい。

**あと1秒早く押していれば防げた事故もあります。**


**みなさまのご協力をお願いします。**




イ. 線路内への立ち入りについて (横断)

**線路内への立ち入りは危険です。線路内に立ち入らないで下さい**

**踏切以外の線路の横断は危険です。近くの踏切を渡りましょう。**



**みなさまのご協力をお願いします。**



ウ. 線路内への立ち入りについて (飛来物)

**近くの駅に連絡してください。**



・線路に飛来したブルーシート



・乗組に引っかかった農業用マルチ

**春と秋には、農業用マルチ等の飛来物が、発生します。飛来物除去のため、線路に立ち入ると、触車・感電事故の恐れがあり大変危険です。**

**線路には絶対に入らないで下さい。**

**みなさまのご協力をお願いします。**



エ. 声かけ・サポート運動について

**「声かけ・サポート運動」はじめています。**  
駅や車内、また踏切などの鉄道施設内で困りの方へ積極的な声かけ。  
見守り支え合う取組を広げていきます。

〇お声かけの例

「何かおこまりですか？」  
お声かけ自体がサポートです。



車いすをご利用のお客さまに安心につながるサポートを。



踏切でも助け合いのお声かけのご協力をお願いします。



**皆さまのご協力をお願いします。**



しなの鉄道株式会社

オ. 沿線工事について

安全に運行するためには、定期的に線路設備の工事等が必要です。また運行に極力影響を与えないように夜間工事を実施する場合があります。工事区域周辺にお住まいの方に、工事期間等をお知らせするパンフレットを配布し、工事手法についても極力ご迷惑をおかけしないように努めておりますが、工事による騒音や振動でご迷惑をおかけする場合もございます。何卒、ご理解ご協力をお願いします。

## 9. 安全報告書に対するご意見

この安全報告書へのご感想、当社の安全への取り組みに対するご意見をお寄せください。

### 【連絡先】

しなの鉄道株式会社 運輸部 運転課

電 話：0268-21-0471 （8：30～17：30 土日曜、祝日、年末年始を除く）

F A X：0268-21-0473

E-mail: [unten@shinanorailway.co.jp](mailto:unten@shinanorailway.co.jp) (当社ホームページからもご意見をお寄せいただけます。)